

原田芳起教授・著作目録

雑誌論文

鹿兒嶋方言の音韻現象に就いて

国語と国文学 7巻9号 5・9

「読方教育」思索と体験

熊本教育

日本文学に現れたる文学意識の生長

歴史と国文学

生長

国文学研究方法論

日本文学 (熊本)

兼好法師の美的観賞

日本文学 (熊本)

近世文学の精神

日本文学 (熊本)

批評の意識化・理念化・理論化に就いて

日本文学 (熊本)

に就いて

俳論史の対象とその方法

日本文学 (熊本)

明治文学の批評的観点 (一)

日本文学 (熊本)

〃 (二)

日本文学 (熊本)

読本の発生的考察に関する一試

日本文学 (熊本)

論

文学の批評について

方言と国文学

枕草子鑑賞 (一)

日本文学 (熊本)

〃 (二)

日本文学 (熊本)

物語の生長

日本文学 (熊本)

エッセイストとしての西鶴

日本文学 (熊本)

昭和六年国文学雑誌界の回顧  
馬琴の小説批評に就て

九州新聞  
クオタリイ日 2 輯 8・7

註釈の到達と文学批評 (一)

国漢研究

〃 (二)

国漢研究

李白集に就て

国漢研究

俳論における虚衷

国漢研究

上代和歌の表現についての二三の考察

国漢研究

源氏物語の構想に関する覚書

国漢研究

軍記物語の思想性

国学院雑誌

鹿兒嶋方言における敬語法

方言

俳諧の文学的影響

日本文学 (熊本)

近代秀歌管見

日本文学

天草島の方言

方言

初中等国語教授の研究

九州新聞

一言語的半面について

九州新聞

国語問題に就いて

九州新聞

日本文学の様式的特性

九州新聞

(一) (六)

九州新聞

歌合を考へてその精神に及ぶ

九州新聞

(一) (十二)

九州新聞

九州方言雑考・その他

熊本教育

(一) (六)

熊本教育

日本文学論に於ける位の理念	日本文学	9	12	九州方言の歴史	日本談義	28	11
古来風体抄の史的意義	日本文学	10	1	接尾辞・形式名詞・辞	語文	29	3
国文学の批評に關して	日本文学	10	5	九州方言文法談義	日本談義	29	8
国語教育界に於ける現代文の地位	国学院雑誌	10	10	かつ・かつがつ・かてに考	樟蔭文学	29	10
俳句に於けるてには止管見	国学院雑誌	10	11	統上代語彙論ノート			
連歌発句管見	瀬祭	11	1	九州方言に現われた弱母音化通則	音声学会会報	29	12
白髮集と宗祇初学抄	国学院雑誌	11	5	言葉の地方化	日本談義	29	12
中世文学に於ける位の理念	日本文学	14	2	西と東	日本談義	30	3
中世文学に於ける写真性の意義	日本文学 (熊本)	14	2	方言周圍論的事実か			
俳句的美観とまこと主義	熊本教育	14	11	九州方言に現われた弱母音化通則	音声学会会報	30	3
出陣千句考説	瀬祭	15	9	蜻蛉日記私註(1)	平安文学研究	30	6
音韻傾向より見たる九州西南方言	方言研究「日本方言」	16	10	傳聞推定の「ナリ」	国語国文	30	7
野坡の俳論に於ける句神の説	国語国文	18	9	方言語彙漫録	日本談義	30	8
方言音韻論私見	音声学会会報	27	7	蜻蛉日記初瀬詣の条について	国語と国文学	30	9
熊本方言の語源学	日本談義	27	9	大鳥の羽の霜	解釈	30	10
上代語彙論ノート	樟蔭文学	27	10	上代日本語動詞の時について	樟蔭文学	30	10
「しか」と「さ」の交錯				通時論的な一二の問題			
語史の遡原	日本談義	28	1	おはさふ・おはさうずの意味構造	語文	30	12
語辞の分類並びにその下位分類に於ける原理的な問題	語文	28	7	造			
活用現象の解釋	樟蔭文学	28	10	方言随想数則	日本談義	30	12
辭の機能との交渉	5号	28	10	關巡考	解釈	31	2
				—宇津保物語語彙考証—			

蜻蛉日記私註(2)	平安文学研究	18 輯	31・6						
方言周圍論をめぐって	日本談義		31・9						
共時態における意味の統一性	樟蔭文学	8 号	31・10						
—おぼろげに考—									
「名聞ぐるしく」の意味	解釈	2 卷 10 号	31・10						
蜻蛉日記私註(3)	平安文学研究	19 輯	31・12						
副詞「ことしも」の意味について(一)	解釈	3 卷 1 号	32・1						
副詞「ことしも」の意味について(二)	解釈	3 卷 2 号	32・2						
副詞「ことしも」の意義について補遺	解釈	3 卷 3 号	32・3						
和泉式部物語中の歌数首	解釈	3 卷 7 号	32・7						
蜻蛉日記私註(4)	平安文学研究	20 輯	32・9						
語法と文体	樟蔭文学	9 号	32・10						
「うちに」の接続機能とその意味 中古特殊語法私考	平安文学研究		32・11						
比較語彙の一試論	文学語学		32・12						
「あふなあふな」をめぐって									
「けしうはあらず」考	解釈	4 卷 1 号	33・1						
蜻蛉日記私註(5)	平安文学研究	21 輯	33・6						
若紫巻の一節について	解釈	4 卷 8 号	33・8						
続々上代語彙論ノート	樟蔭文学	10 号	33・10						
—平安朝の数名詞とその表記—									
「うちに」の接続機能とその想 味—中古特殊語法私考—	平安文学研究	22 輯	33・11						
物語描写における地と対話	解釈	4 卷 11・12 号	33・12						
商自許里・ししこからす私注	語文		33・12						
文学語彙とその周辺									
語法形式と意味	文学語学	12 号	34・6						
いづくはあれど									
蜻蛉日記私註(6)	平安文学研究	23 輯	34・7						
源氏物語における漢語彙の位相	樟蔭文学	11 号	34・10						
「源氏物語ハンドブック」	解釈と鑑賞	(増刊)	34・10						
すくし・すずろ・つれなし・とが・なさけ・やさし各項									
源氏物語漢語彙弁証	国文学		34・10						
類義語の意味論的処理 「やさし」と「恥づかし」のあいだ	言語と文芸		34・11						
「すちなし」か「ずちなし」か	解釈	5 卷 11・12 号	34・12						
—同義語問題の一処方として—									
平安文学における漢語彙研究の課題—特に意味論的弁証の問題をめぐって—	平安文学研究	24 輯	35・3						
源氏物語年立論への疑い—葵の巻前後の部分構図について—	国語と国文学	37 卷 5 号	35・5						
光厳院御集と花園院御集	史学文学	3 卷 1 号	35・6						
「しこる」「あきじこり」の周辺	万葉		35・7						

伝聞推定の「なり」	国語国文	35	7
活用形式の分岐・交替と意味	樟蔭文学	35	10
「隠る」の古活用など			
鹿兒島の方言	放送講演集九州方言講座	36	1
「万葉集ハンドブック」	解釈と鑑賞 (増刊)	36	2
万葉集重要語句の詳解(あき			
がはりーあきじこり・あたら			
・あづきなし・あひだ・あふ			
さわに・あまた・あやに・あ			
たらし・あをによし・いとま			
・いぶせし・うつたへ・おく			
まけてーおくまへて・かくる			
ーこもる・がに・き・さと・			
しこ・しこる・しなふ・なか			
なかに・なにせむに・はなり			
・ほど・まさかーおく・むか			
しーいにしへ・ゆふぎりーよ			
ぎり・わする各項			
平安文学と漢語	平安文学研究	36	6
宇都保物語「内侍のかみ」小論	樟蔭文学	37	10
ー物語構想の中の時間ー			
宇津保物語における「時間」	国語国文	37	10
ー長篇的方法の創始としてー			
徒然草読本	解釈と鑑賞	27	12
徒然草語彙解説(いうげん(			
幽玄)・けはれ(藝晴れ)・			
こころなし(心憂し)・ここ			
ろづきなし(心調なし)・こ			
とば(言葉・詞)・このむ・			
える・えらぶ・ざえ・しのぶ			
(徳ぶ・忍ぶ・隠ぶ)・すさ			
まじ(荒まじ)・にようばう			
(女房)・めづらし(珍らし)			
・めでたし(愛でたし)・も			
のあはれ(物の哀)・わび			
し(化びし)・わろし(悪し)			
・をこがまし			
宇津保物語構想論のために	平安文学研究	29	11
ー吹上行幸をめぐる問題ー			
<sup>大東</sup> 奥儀抄管見	かがみ	8	3
大東急本奥儀抄と忠岑十体	文学語学	27	3
宇津保物語語彙弁証	平安文学研究	38	3
ー内侍のかみよりー	平安文学研究	38	6
宇津保物語の中の人物	国語国文	38	11
ー藤原の君の子女をめぐるつてー			
いとゆふ考その他	平安文学研究	38	12
ー宇津保物語の語彙からー			
後京極摂政と三十六番相撲立詩	樟蔭国文学	39	1

鈴木弘道著『平安末期物語の研究』	関西大学国文学	35号	39・1	—宇津保物語の言語の文体	平安文学研究	38輯	42・6
助動詞「けり」の意味	言語と文芸	6巻3号	39・5	(五) —	大阪樟蔭女子大学論集	5号	42・11
書陵部藏花園院御製(翻刻)	樟蔭国文学	2号	39・11	宇津保物語登場人物論拾遺	大阪樟蔭女子大学論集	5号	42・11
(光厳院御集)				—宇津保物語注釈の一つの観点	樟蔭国文学	5号	42・11
宇津保物語の構想に関する雑考	平安文学研究	33輯	39・11	—「劣はる」の特殊用例をめぐって	平安文学研究	39輯	42・12
宇津保物語の言語と文体(一)	平安文学研究	34輯	40・6	長篇物語におけるならばの巻の意義—残された問題点について—	大阪樟蔭女子大学論集	6号	43・11
宇津保物語の言語と文体(二)	平安文学研究	35輯	40・11	宇津保の注釈への捨て石二つ三つ	樟蔭国文学	6号	43・11
—難語の認定と意味づけ—				宇津保物語内侍のかみの巻の錯簡についてのおぼえ書き	宇津保物語研究会会報	1号	43・11
宇津保物語の中の人物(2)	大阪樟蔭女子大学論集	3号	40・11	宇津保物語積例—文章発端—	平安文学研究	41輯	43・12
—嵯峨院およびその周辺—				木之下正雄著『平安女流文学のことば』	平安文学研究	34巻7号	44・7
宇津保物語と遊仙窟	樟蔭国文学	3号	40・11	物語文学における現実観の深化—宇津保物語評論序説—	大阪樟蔭女子大学論集	7号	44・11
宇津保物語の言語と文体(三)	平安文学研究	36輯	41・6	胡笳の曲をめぐる解釈の問題	宇津保物語研究会	2号	44・11
—語の認定と本文批判—				—宇津保物語注釈余材—	平安文学研究	43輯	44・11
宇津保物語における引き歌	平安文学研究	37輯	41・11				
—宇津保物語の言語と文体(四)—							
一院という称呼について	大阪樟蔭女子大学論集	4号	41・11				
—物語文学と歴史との連続—							
物語文章解釈のために	樟蔭国文学	4号	41・11				

いもせ語義弁証—源氏物語等の 解釈に触れて—	樟蔭国文学	7号	45・3	「そしうなる物の師」再考	松風学会誌	1号	47・9
さてや小宮は東宮におはせぬ— —宇津保物語解釈の一作業例—	中古文学	5号	45・3	宇津保物語蔵開の上冒頭本文 の処理とその解釈についての 私見	大阪樟蔭女子 大学論集	10号	47・11
「けり」の変遷—活用を中心と して—	文法	2巻7号	45・5	俊蔭の巻ところどころ	平安文学研究	49輯	47・12
「一の上」「一の人」の意味 —従来の解釈への補正—	平安文学研究	44輯	45・6	「なま女」の解説をめぐる問題 —写本表記の批判的処理—	樟蔭国文学	10号	48・3
古語再見—「楼の上の下」から— —宇津保物語語研 究会会報	宇津保物語研 究会会報	3号	45・11	中古文学語彙雑考(一) —中のころも考—	平安文学研究	50輯	48・7
弾正の宮の恋 —宇津保物語構想の進展—	平安文学研究	45輯	45・11	注釈・辞書の周辺と語史 柴屋軒宗長の文学 現実諦観とわび	松風学会誌 大阪樟蔭女子 大学論集	2号 11号	48・9 48・11
いわゆる準体助詞に関する史的 考察—現代方言の多様性に 及ぶ—	大阪樟蔭女子 大学論集	8号	45・11	解釈における誤差の修正 —「かき乱るやうなれば」の 言語的解釈をめぐる	中古文学	12号	48・11
『枕草子』と平安時代の語彙 —男手・女手名義考—	文法 樟蔭国文学	3巻4号 8号	46・2 46・3	中古文学語彙雑考(二) —「わかむとほり」名義臆説—	平安文学研究	51輯	48・12
宇津保物語の字音語をめぐる問 題一二	宇津保物語研 究会会報	4号	46・8	「くらべぐるし」の語義につ いて—共時態における多義性 と統一性—	滋賀大國文	11号	49・1
語彙と文法 —忘るるまなく忘れられぬ君— 中古における「のたまふ」の意 味—敬語の意味体系の問題に 触れて—	大阪樟蔭女子 大学論集 樟蔭国文学	9号 9号	46・11 47・3	「あひだに」 —「ほどに」についての語彙論 的考察—	樟蔭国文学	11号	49・3

河野多麻著『うつほ物語伝本の研究』	国語と国文学	51巻6号	49・6	宇津保物語の構造	大阪樟蔭女子大学論集	14号	52・3		
中古文学語彙雑考(三)	平安文学研究	52輯	49・7	表現・解釈・語文	中古文学	19号	52・5		
—「目に見す見す」をめぐって—				中古文学語彙雑考(七)	平安文学研究	57輯	52・6		
統・柴屋軒宗長の文学	松風学会会誌		49・9	—「わたり川」の意味について—	文学的発想における「さひはひ」	—「中物語文学」に関する試論—	檀蔭国文学	15号	52・10
上代の形容詞性接尾辞「じ」	檀蔭国文学	12号	49・9						
—打消か類似か—									
書評・北村英子著『なまめかし』	檀蔭国文学	13号	50・3						
—「ゆほびかなる所」再説—									
中古文学語彙雑考(四)	平安文学研究	53輯	50・6	中古文学語彙雑考(八)	平安文学研究	58輯	52・11		
—「ゆほびかなる所」再説—				—「中の宮」か「中の君」か—	伝承と創作	大阪樟蔭女子大学論集	15号	53・3	
物語年立研究史の一編	檀蔭国文学	13号	50・10	(改稿)俳諧表現論としての本情の説	檀蔭国文学	16号	53・10		
—若紫の巻の時間をめぐって—				語彙と表現の間	檀蔭国文学	17号	54・10		
北村英子著『なまめかし—平安美的語詞「なまめかし」の研究—』	平安文学研究	54輯	50・11	書評・鈴木一男教授著『初期点本論攷』を読む	大阪樟蔭女子大学論集	17号	55・3		
中古文学語彙雑考(五)	平安文学研究	54輯	50・11						
—「中の十日」の語義補説—									
浮舟悲劇の意味	大阪樟蔭女子大学論集	13号	51・3	単行本	大同館		(昭和年)月		
—宇治十帖に関する断章—				日本小説評論史序説	耕進社	7	7・12		
「気尔余波受吉奴」存疑	檀蔭国文学	14号	51・9	日本小説史概説	日本談義社	9	9・2		
中古文学語彙雑考(六)	平安文学研究	56輯	51・10	熊本方言の研究	風間書房	28	28・1		
—「げざやか」「げざやぐ」—				平安時代文学語彙の研究		37	37・9		

新撰 古語辞典(編集参与)	小学館	38・4	
宇津保物語 上巻・中巻	角川文庫	44・3	
下巻	角川文庫	45・11	
平安時代文学語彙の研究 続編	風間書房	48・11	
宇津保物語研究 考説編	風間書房	52・12	
探究日本文学 中古中世編	風間書房	54・12	
単行本一部所収論文			
文検中等教員高等教員国語科問題の研究	日本文学概論	7	
日本文学の様式と形態	新屋敷幸繁・峯岸義秋著		
	大明堂	7・6	
物語と小説	同 右		
随筆日記	同 右		
ダ行ザ行間の訛りについて	近畿方言双書 第一冊		
―その誘因に関する臆説―	東條操先生古稀祝賀論文集		
	近畿方言学会編	30・4	
宇津保物語と遊仙窟	宇津保物語新攷		
	宇津保物語研究会編		
	古典文庫	41・1	
宇津保における人物系譜設定	宇津保物語論集		
の構想論的意義	宇津保物語研究会編		
―長編的方法の創始として―	古典文庫	48・12	
	宇津保物語における「時間」		
	―長編的方法の創始として―		
	平安朝物語Ⅱ―宇津保物語―		
	有精堂	49・3	
	源氏物語のことば		
	鑑賞日本古典文学 9		
	玉上球彌編 角川書店	50・2	
	枕草子講座 4		
	枕草子講座 4		
	有精堂	51・3	
	国語史における枕草子		



隨筆

題名	大阪樟蔭女子大学国文学会会報	号数	昭和年	月
樟の蔭に		1	32	11
過去現在未来		2	33	11
問わず語り(一)		3	34	11
問わず語り(二)		4	35	11
批評と悪口		5	36	10
十年		6	37	10
無題		8	39	10
還暦		10	41	10
若いてすばらしい		11	42	10
国文学と私		12	43	10
潜在意識の中の私		13	44	10
無題		14	45	10
この一筋につながる		15	46	10
故細川馨先生を憶う		16	47	10
昨日今日		17	48	10
あるき統けて		18	49	10
つぶやきの自伝点描		19	50	9
(一) 折返し点		8	50	10
学長代行就任にあたって	樟蔭学園報くすのき	11	51	5
若人たちに与える断章(一)				

  

つぶやきの自伝点描	大阪樟蔭女子大学国文学会会報	20	51	10
(二) 蹉跎の記	大阪樟蔭女子大学書道部翠滴	13	51	11
物語に現われた平安朝の書道	樟蔭学園報くすのき	14	51	12
題知らず	樟蔭学園報くすのき	17	52	7
断章(二)	大阪樟蔭女子大学国文学会会報	21	52	9
久保重先生の古稀の寿をこほぐ		21	52	9
つぶやきの自伝点描		21	52	9
(三) みみずは鳴かない		21	53	5
断章(三)	樟蔭学園くすのき	21	53	5
つぶやきの自伝点描	大阪樟蔭女子大学国文学会会報	22	53	11
(四) 方言研究との出逢い		23	54	7
無題	大阪樟蔭女子大学書道部翠滴	15	53	11
つぶやきの自伝点描	大阪樟蔭女子大学国文学会会報	23	54	7
(五)		23	54	7
ある青春の自画像	樟蔭学園くすのき	27	54	7
手習い談義	大阪樟蔭女子大学書道部翠滴	16	54	7
つぶやきの自伝点描	大阪樟蔭女子大学国文学会会報	24	55	7
(六) 独学道のスタート		24	55	7
『探究日本文学』 中世編 自著を語る		24	55	7

△遠藤真澄・大谷良子・黒葛良子編▽